

藻 類

THE BULLETIN OF JAPANESE SOCIETY OF PHYCOLOGY

昭和38年12月 December 1963

目 次

琉球列島産海藻知見 (II)	香村 真徳	103
佐渡海峡の海藻	野田 光蔵	109
ソノ属植物の成実枝中における四分孢子嚢の配列	斎 藤 諒	114
東道太郎氏コレクションの海藻標本目録 [I]	岡本 一彦	118
新著紹介 B. P. PAL, B. C. KUNDU, V. S. SUNDARLINGAM and G. S. VENKATARAMAN 共著 Charophyta		126
学 会 録 事		126

日 本 藻 類 学 会

JAPANESE SOCIETY OF PHYCOLOGY

日本藻類学会々則

第1条 本会は日本藻類学会と称する。

第2条 本会は藻学の進歩普及を図り、併せて会員相互の連絡並に親睦を図ることを目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。

1. 総会の開催 (年1回)
2. 藻類に関する研究会、講習会、採集会等の開催
3. 定期刊行物の発刊
4. その他前条の目的を達するために必要な事業

第4条 本会の事務所は会長のもとにおく。

第5条 本会の事業年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第6条 会員は次の3種とする。

1. 普通会員 (藻類に関心をもち、本会の趣旨に賛同する個人又は団体で、役員会の承認するもの)。
2. 名誉会員 (藻学の発達に貢献があり、本会の趣旨に賛同する個人で、役員会の推薦するもの)。
3. 特別会員 (本会の趣旨に賛同し、本会の発展に特に寄与した個人又は団体で、役員会の推薦するもの)。

第7条 本会に入会するには、住所、氏名 (団体名)、職業を記入した入会申込書を会長に差出すものとする。

第8条 会員は毎年会費500円を前納するものとする。但し、名誉会員及び特別会員は会費を要しない。

第9条 本会には次の役員をおく。

会長 1名。 幹事 若干名。 評議員 若干名。

役員の任期は2ヶ年とし重任することが出来る。但し、評議員は引続き3期選出されることは出来ない。

役員選出の規定は別に定める。(附則 第1条～第4条)

第10条 会長は会を代表し、会務の全体を統べる。幹事は会長の意を受けて日常の会務を行う。

第11条 評議員は評議員会を構成し、会の要務に関し会長の諮問にあづかる。評議員会は会長が招集し、また文書をもつて、これに代えることが出来る。

第12条 本会は定期刊行物「藻類」を年3回刊行し、会員に無料で頒布する。

(附 則)

第1条 会長は国内在住の全会員の投票により、会員の互選で定める (その際評議員会は参考のため若干名の候補者を推薦することが出来る)。幹事は会長が会員中よりこれを指名委嘱する。

第2条 評議員の選出は次の二方法による。

1. 各地区別に会員中より選出される。その定員は各地区1名とし、会員数が50名を越える地区では50名までごとに1名を加える。
2. 総会に於いて会長が会員中より若干名を推薦する。但し、その数は全評議員の1/3を越えることは出来ない。

地区割は次の7地区とする。

北海道地区。東北地区。関東地区 (新潟、長野、山梨を含む)。中部地区 (三重を含む)。近畿地区。中国・四国地区。九州地区 (沖縄を含む)。

第3条 会長及び幹事は評議員を兼任することは出来ない。

第4条 会長および地区選出の評議員に欠員を生じた場合は、前任者の残余期間次点者をもって充当する。

第5条 本会則は昭和33年10月26日より施行する。

琉球列島産海藻知見 (II)

香村真徳*

S. KAMURA: Notes on Some Marine Algae
from the Southern Ryukyu Islands (II)

Ulvaceae アオサ科

Ulva japonica (HOLMES) PAPENFUSS ヤブレグサ

Journ. Linn. Soc., Vol. 56, 19, p. 303

in OKUMURA (1928) p. 188, pl. 250, figs. 1-4; (1936) p. 11, fig. 4.

under *Letterstedtia japonica* HOLMES.

本邦温帯産の種として知られているこの海藻は最近田中博士 (1956, '60) によって琉球列島の北に位置する奄美大島及び与論島からも報告されている。今回筆者は本種を沖縄島の最北端の辺戸で採集することができた。

本邦温帯産の種類と考えられているもので沖縄島を南限とする種類が幾つかあるが、その中には沖縄島北部の沿岸にのみ局生するものがある。後述してあるフクロフノリもその一つである。

産地： 低潮線附近の礁壁に着生，沖縄島辺戸 (No. 1071)。

Ulva fasciata DILILE リボンアオサ

in TAYLOR (1942) p. 14; (1960) p. 66, pl. 1, fig. 4.

本種は山田博士 (1935) によって台湾から報告されて以来，本邦暖海の沿岸にも広く分布していることが知られている (瀬川, 1956)。琉球列島に於ては奄美大島 (田中, 1956) 及び与論島 (田中, 1960) から報告されており，沖縄島にも産することを知った。

長さは 40 cm 位に達する。

産地： さんご礁からなる潮間帯下部附近のタイドプールの側壁に着生，沖縄島米須 (No. 1930)。

* 琉球大学文理学部生物学教室

The Bulletin of Japanese Society of Phycology Vol. XI. No. 3, December 1963.

Sphacelariaceae クロガシラ科

Sphacelaria furcigera KUETZING ワイジガタクロガシラ

(1855) p. 27, pl. 90, fig. 2; TAYLOR (1928) p. 105; BOERGESEN (1941) p. 46, fig. 21; LUND (1947) p. 29, fig. 5; DAWSON (1954) p. 400, fig. 14-h.

藻体はホンダワラ類の茎上 (Fig. 1) 或は岩礁に叢生する。ホンダワラ類の茎上に着生するものでは基部細胞から出る匍匐状仮根によって付着しているのが普通であつて、基部細胞を宿主の組織に穿孔させている場合が観察された (Fig. 2, A)。直立枝の高さは1 cm 内外で不規則に分岐する。直立枝の直径は25~50 μ 。

今までに得られた各地の採集物にはY字状の propagula のみが観察されただけである (Fig. 2, B)。propagula の柄は頂端にかけて多少太くなり、その長さは通常250 μ (400 μ に達する)、径は中央附近において30 μ に達する。角状の部分は通常360 μ 長くその径は23~39 μ 。

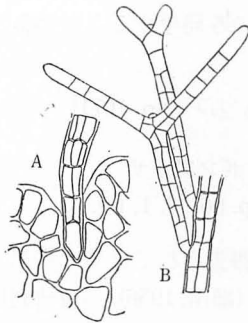


Fig. 1. *Sphacelaria furcigera* KUETZING

The plants epiphyte densely on the stem of *Sargassum* sp.

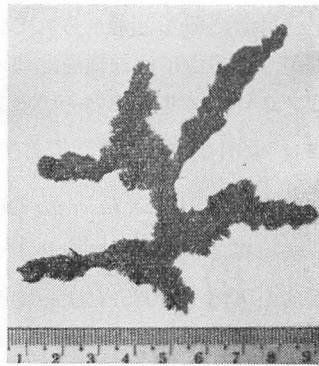


Fig. 2. *Sphacelaria furcigera* KUETZING

A, part of the thallus with two propagula. $\times 75$.—B, basal part inserting into the outer tissue of the host. $\times 37$.

本種が本邦に産するか否か岡村博士 (日本海藻誌, p. 152) は疑問を抱いておられるが、同著書に産地として挙げてある琉球に於て筆者は本種を確認することができた。なお HEYDRICH (1894) は小笠原諸島から本種を報告して

おり、更に琉球列島に隣接する台湾から変種である *var. tenuis* YAMADA (1941) が報告されている。このような事から本種は本邦亜熱帯の海域に広く分布しているものと考えられる。

産地： タイドプールの礁上に生育、伊是名島城崎 (No. 1981)。潮間帯下部に生育するホンダワラ属の一種の茎上に密生、沖縄島与那城 (No. 1011)、百名 (No. 1012)。タイドプールに生育するラッパモクの茎上にグンセンクロガシラ等と密生、宮古池間島 (No. 1894)。

Endocladiaceae フノリ科

Gloiopeltis furcata POSTELS et RUPRECHT フクロフノリ

in OKAMURA (1927) p. 164, pl. 244; (1936) p. 562, fig. 264;

須藤 (1951) p. 1, fig. 2; 瀬川 (1956) p. 80, pl. 47, No. 374.

藻体は円柱状、中空で5cmの高さに達するが3cm内外のものが最も普通であり、太い所で径は2.5 mm 以下である。体は不規則に叉状に分岐し、枝の先端にかけて次第に細くなる。分岐点にはくびれが殆んど見られない。NAGAI (1941) が観察しているように雌性の藻体は四分孢子体に比較して短く細くなる傾向が見られる (Fig. 3)。

本種は日本列島に於て北は千島 (NAGAI, 1941)、樺太 (TO-

KIDA, 1954) から南は琉球列島の与論島 (田中, 1960) まで分布しており、沖縄島の北部やそれに近接する伊是名島に南限のあることを知った。

産地： 潮間帯上部の岩面に生育、伊是名島仲田 (No. 1902 ⊕, No. 1903 ♀); 沖縄島塩屋 (No. 1849 ⊕, No. 1850 ♀)。

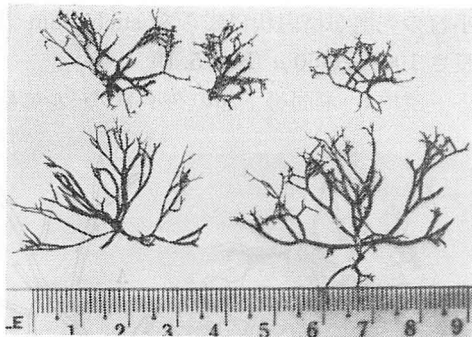


Fig. 3. *Gloiopeltis furcata* POSTELS et PUPRECHT

Fruiting female plants in the upper row and the tetrasporic ones in the lower.

Rhodymeniaceae ダルス科

Coelothrix irregularis (HARVEY) BOERGESSEN ニセイバラノリ (新称)

(1920) p. 389, figs. 373-374; TAYLOR (1928) p. 160, pl. 22, fig. 19; pl. 23,

fig. 18; (1960) p. 488, pl. 45, fig. 3; pl. 46, fig. 4; *Cordylecladia? irregularis* HARVEY (1853) p. 156; HEYDRICH (1894) p. 294.

体は緩く或は密にからみ合い、クッション状に広がる。体は稍硬く、円柱状、下部は分岐して匍匐状になり所々から束状の仮根を出して基物に付着する。直立状の枝は不規則に分岐し、所々から出る束状の仮根でもって互に付着し合う (Fig. 5, A)。主枝の直径は $0.5-0.7\text{ mm}$ 位であり先端にかけて漸次細くなる。藻体は外形的にイバラノリ属の種類に似ている (Fig. 4)。構造的に体は中空であり、楕円形—円形の巾 $15-23\text{ }\mu$ 、長さ $20-47\text{ }\mu$ の一層の表皮細胞と四~五層の楕円形—円形の巾 $18-58\text{ }\mu$ の細胞からなる柔組織 (横断面)、それに内腔に向って腺細胞を突出した構造から成立っている (Fig. 5, C-D)。

生殖器官は宮古島の採集物に僅に四分孢子嚢が観察されただけである。小枝の先端が楕円状に膨らみ stichidium 状になり、その巾は $450-500\text{ }\mu$ 、長さ $1000-1150\text{ }\mu$ (Fig. 5, B)。

産地： 潮間帯下部のタイドプールに生育するラッパモクの根元から

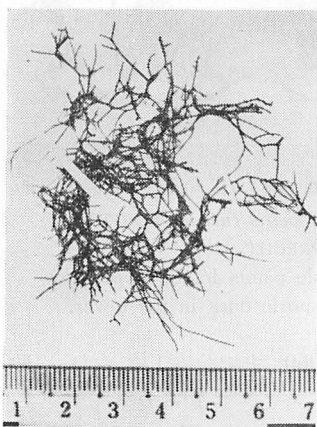


Fig. 4. *Cordylecladia? irregularis* (HARVEY) BOERGESEN

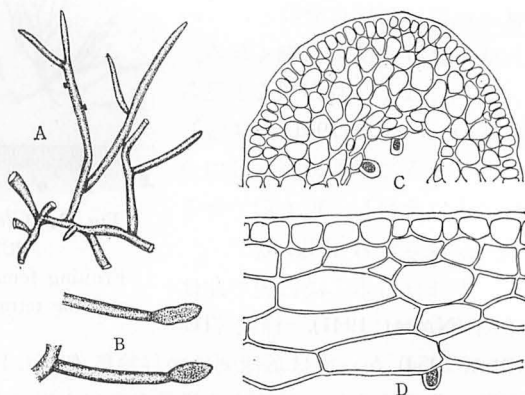


Fig. 5. *Cordylecladia? irregularis* (HARVEY) BOERGESEN

A, habit of a fragment of the thallus showing two branches with anastomose. $\times 0.8$.—B, two stichidia. $\times 2$.—C, cross section of the thallus showing two gland cells in the cavity. $\times 32$.—D, longitudinal section of the thallus. $\times 43$.

み合う、沖縄島与那原 (No. 732); タイドプールに生育、伊差浜 (No. 1575)。久米島間泊 (山里清氏採集, No. 1534)。潮間帯下部の礁上に生育、宮古島トリバー (No. 1246); 久松 (下地正純氏採集, No. 1603)。

本種の本邦に関する記録として HEYDRICH (1894) は *Cordylecladia?* *irregularis* の学名で宮古島から報告しているが、本種が本邦に産するかどうか、その後本邦藻類学者によって確認されていないために本種は岡村金太郎著「日本海藻誌」に掲載されず、また現在まで本種の生育については確認されずになっている。一方、本邦を type locality とする *Sphaerococcus rigens* C. AG. (1822) と *Coelothrix irregularis* との関係について色々と論議されており、なかでも KYLIN (1931) は J. AGARDH の標本の中に *Sphaerococcus rigens* が見出されないために *Coelothrix irregularis* と同一のものであるかどうか解決の可能性がないことを述べている。

Coelothrix の分類学的位置は囊果の構造が不明のまま、体構造と四分孢子囊の分裂の方法に基づき Rhodymeniaceae (BOERGESSEN 1920, '44, '50; KYLIN 1956), または Champiaceae (TAYLOR 1960) に置かれている。Rhodymeniaceae に置かれる理由として体の構造が *Chrysymenia* に近いこと (BOERGESSEN 1920, '44), および四分孢子囊が十字状に分裂すること (BOERGESSEN 1950; KYLIN 1956) 等が挙げられよう。一方、TAYLOR は体の中空の部分に filament が屢々観察されると述べており、更に四分孢子囊が tetrahedral* に分裂することを属の特徴として本種を Champiaceae に置いている。いずれにせよ囊果の構造が明らかにされた上で分類学的な位置付けが解決されよう。

終に臨み懇篤なる御指導を賜った北大理学部山田幸男教授に謹んで感謝の意を表する。また材料を提供下さった山里清助教授、南部農林高等学校下地正純氏に謹んで御礼申し上げる。

Summary

In this paper the following five marine algae including two species of Chlorophyceae, one species of Phaeophyceae, and two species of Rhodophyceae from the

* KYLIN (1931) は四分孢子囊が tetraedrisch に分裂することを述べているが、根拠のないものであることを BOERGESSEN (1944) は KYLIN の私信をもって明らかにしている。BOERGESSEN (1950) は *Coelothrix indica* の四分孢子囊の分裂を観察して次のように述べている。 "...some being tetrahedrally divided, but most of them cruciately or more irregularly,..."

southern Ryukyu Islands, Japan, are reported;

Letterstedtia japonica HOLMES

Hab.: Hedo, Okinawa-jima (No. 1071).

Ulva fasciata DILILE

Hab.: Komesu, Okinawa-jima (No. 1930).

Sphacelaria furcigera KUETZING (Figs. 1-2).

Hab.: Gusuku-zaki, Izena-jima (No. 1981); Yonashiro and Hyakuna, Okinawa-jima (Nos. 1011, 1012); Ikema-jima, Miyako (No. 1894).

Gloiopeltis furcata POSTELS et RUPRECHT (Fig. 3).

Hab.: Nakada, Izena-jima (Nos. 1902, 1903); Shioya, Okinawa-jima (Nos. 1849, 1850).

Coelothrix irregularis (HARVEY) BOERGESEN (Figs. 4-5).

Hab.: Yonabaru and Isahama, Okinawa-jima (Nos. 732, 1575); Madomari, Kume-jima (No. 1534); Triba and Hisamatu, Miyako-jima (Nos. 1246, 1603).

This species, which was previously reported as *Cordylecladia? irregularis* HARVEY from Miyako-jima, Ryukyu Islands, Japan by HEYDRICH (1894), has been omitted from the marine flora of Japan. However, the present writer reaffirmed some inhabitations of the species in the present region and found that this species may be added to the marine flora of Japan.

参 考 文 献

- BOERGESEN, F. (1915-20): The marine algae of the Danish West Indies. pt. 3 Rhodophyceae. —(1941-44): Some marine algae from Mauritius. II. Phaeophyceae, III. Rhodophyceae. Det Kgl. Danske Vidensk. Selsk. Bio. Meddel., 16 (3), 19 (6); —Some marine algae from Mauritius, —ibid. 18 (11); DAWSON, E. Y. (1954): Marine plants in the vicinity of the Institute Oceanographique de Nha Trang, Viet Nam. Pac. Sci., 8 (4); HEYDRICH, F. (1894): Beiträge zur Kenntnis der Algenflora von Ost-Asien ..., Hedwigia 33; KUETZING (1855): Tabulae Phycologicae, Bd. 5; KYLIN, H. (1931): Die Florideenordnung Rhodymeniales. Lunds Univ. Arsskrift. N. F. Avd. 2, 27 (11); —(1956): Die Gattungen der Rhodophyceen. Lund; LUND, S. (1950): The marine algae of Denmark. vol. 2. Phaeophyceae IV. Det Kong Danske Vidensk. Selsk. Biol. Skriffter, 6 (2); NAGAI, M. (1941): Marine algae of the Kurile Islands II. Jour. Fac. Agr., Hokkaido Imp. Univ., 46 (2); OKAMURA, K. (1927-28): Icones of Japanese Algae, 5 (9), 5 (10); —(1936): 日本海藻誌, 東京; 瀬川宗吉 (1956): 原色日本海藻図鑑; 須藤俊造 (1951): フノリの養殖. 水産界, No. 803; 田中剛 (1956): 奄美大島の海藻とその資源. 南方科学研究報告, 1 (3); —(1960): 奄美群島, 与論島の堡礁上の海藻相. 南方科学研究報告, 2 (2); TAYLOR, W. R. (1928): The marine algae of Florida...Carnegi Inst. Wash., Pub., 25; —(1942): Caribbean marine algae of the Allan Hancock Expedition, 1939. Allan Hancock Atlantic Exp. Rep. No. 2; —(1960): Marine algae of the eastern

tropical and subtropical coasts of the America; TOKIDA, J. (1954): The marine algae of Southern Saghalien. Mem. Fac. Fish., Hokkaido Univ., 2(1); YAMADA, Y. (1935): Notes on some Japanese algae VI. Sci. Pap. Inst. Algol. Res., Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ., 1(1);—(1941): Notes on some Japanese algae IX. ibid. 2(2).

佐 渡 海 峡 の 海 藻*

野 田 光 蔵**

M. NODA: On the Marine Flora of Sado
Straits in the Japan Sea

佐渡島を本州本土から距つる佐渡海峡には北上する対馬暖流の分流が入り、また本土から信濃川の分水流が流れこんでいる。昭和 29 年以来、佐渡海峡沿岸にて確め得た海藻の種類は凡そ 227 種に達した。佐渡海峡に面する本州本土の海岸線は単純で褐藻の種類貧弱で所産の海藻は 169 種が得られた。佐渡島沿岸について云えば、東西両沿岸に共通するもの 113 種、外海に面する西海岸に 185 種、佐渡海峡に面する東海岸に 222 種を産し、佐渡海峡はその種類に富んでおり、また他の沿岸には見られない種類が 109 種に達し、種類や分布上から見て興味ある地帯である。

種 類	佐渡島	佐 渡 海 峡	外海 (西海岸)	共 通 種	本 州 本 土 (新 潟 県)
藍	藻	19	11	8	2
緑	藻	19	20	12	13
褐	藻	63	50	33	33
紅	藻	121	104	60	121
計		222	185	113	169

総じて緑藻類は佐渡島の両沿岸にては大差ないが、外海に面する西海岸に見られるハヒミル (*Codium adhaerens*) は佐渡海峡には見られない。共通

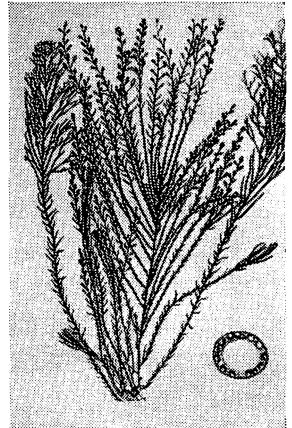
* 第 25 回大会、日本植物学会 (1960, 11) にて発表

** 新潟大学理学部

The Bulletin of Japanese Society of Phycology Vol. XI. No. 3, December 1963.

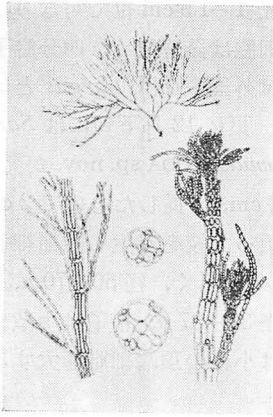
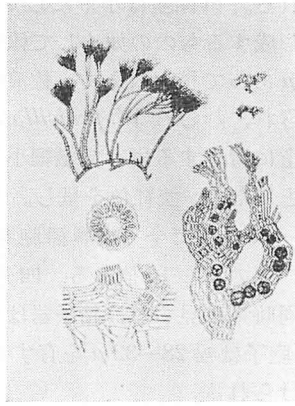
に見られるフサイハヅタ (*Caulerpa okamurai*) は佐渡海峡に於て生育良好であるが、オオシホグサ (*Cladophora japonica*) は不良である。また西海岸(外海)には亜寒帯種エゾヒトエグサ (*Monostroma angicava*) 及び *f. cylindraceum*, ウスヒトエグサ (*M. grevillei*) が発生するが、佐渡海峡では両津湾に注入する加茂湖口にエゾヒトエグサのみ生育する。また日本海に見られるアオノリは多くはヒラアオノリ (*Enteromorpha compressa*) でボウアオノリ (*E. intestinalis*) は極めて稀であるが、佐渡海峡小木地方には時に発生する。

褐藻類に於ては佐渡海峡沿岸は西海岸より優勢を示し、シホミドロ (*Ectocarpus confervoides*), ナンカイシホミドロ (*E. formosanus*), ムチモ (*Cutleria cylindrica*), *Dictyota cervicornis* KÜTZ., イトアミジ (*D. linearis*), *D. indica*, ヘラアミジ (*D. spathulata*), ニセモヅク (*Acrothrix pacifica*), クロメ (*Ecklonia kurome*), イシゲ (*Ishige okamurai*) などは西海岸には見られない。また日本海特産種のスギモク (*Coccophora langsdorffii*) は佐渡海峡に多く見れる。また顕微鏡的な小型種 *Ascocyclus stenonemus* TAKAMATSU, *Compsonema ramulosum* S. et G., *Hecatonema maculans* (COLLINS) SAUVAGEAU, *H. terminalis* (KÜTZ.) KYLIN, *Myrionema globosum* (REINKE) FOSLIE, *Elachista coccophorae* TAKAMATSU, ナミマクラ (*E. fucicola*) などが見られる。



第1図 スギモク

紅藻類は種類多く、この一帯を最北限とするものが多くなり、その主なるもの挙げると、ガラガラ (*Galaxaura fastigiata*) が本州本土の能生に、柏崎にオオムカデノリ (*Halymenia acuminata*), 寺泊などにケイトグサ (*Polysiphonia tapinocarpa*) が止まり、佐渡島の小木一岩首一帯の前浜海岸には褐藻クロメと共にベニモヅク (*Helminthocladia australis*), ヨゴレコナハダ (*Liagora japonica*), イトキヌゲ (*Monospora yagi*), マキイギス (*Ceramium aduncum*), ツクシイギス (*C. equisetoides*), *Wrangelia penicillata*, ササバヤナギノリ (*Chondria lancifolia*), ホソバミリン (*Solieria mollis*), タイワンイトグサ (*Polysiphonia harlandi*), *Lophocladia lallemandii* や新

第2図 *Lophocladia*第3図 *Polysiphonia sadoensis*

種サドハヒイトグサ (*Polysiphonia sadoensis* NODA sp. nov.), *Wrangelia tenuis* NODA sp. nov. などがある。*Polysiphonia sadoensis* NODA は矮性で匍匐枝を有し枝端に毛状枝を束生する点に於いてヨナクニイトグサ (*P. yonakuniensis* SEGI) に類似するも周心細胞は更に多く、16—19個を有する。佐渡海峡には3種類の *Wrangelia* が生育する。其中最も大型のものは瀬川や岡村によって図示された *W. argus* の嚢果と同一形態を示し、外海に面する西海岸には見られない。而して西海岸には鮮かな青紫色を呈した中型種がサンゴモ科植物の体上に着生して低潮線附近に8月以降見られる。この種型のものは生育地により体色の変化を示すものの如く佐渡海峡の静かな海中では褐紫色を呈する。我が国の沿岸から *W. argus* として報告せられて居るのは多くはこの種型のもののように思われる。両者は明かに外形、形質、四分孢子嚢の大きさ、嚢果の形状に於て異なる。前者は *W. penicillata* C. AG. に最も近縁種と考えられ、恐らく同一種と思われる。後者は遠藤博士によって *W. purpurifera* とせられ、岡村博士によって *W. argus* に包含されたものと産地の上から言っても一致する。併し、岡村博士の著書「日本藻類図譜、第7巻」に示された *W. argus* (pl. 324) とは嚢果の形状を異にし、四分孢子嚢の大きさは約 54μ にして小さく、略々一定して変異性は認められない。外国産の *W. argus* の標本、また熱帯アメリカ産のものについてなした TAYLOR の記載とは著しく異なっており、我が国の沿岸産の *W. argus* に就いては疑問

が持たれる。外国産は小形にして高さは凡そ 1—1.5 cm 位で可なり広がった群叢を形成するものの如くして体には皮層細胞は発達なく、四分孢子嚢は径 60—70 μ あって少々大きく、佐渡産のものは外国産の *W. argus* とは明かに区別せられ、むしろ *W. penicillata* に近い。更に 12 月下旬には *Sargassum* 類の枝上に着生する極めて繊細小形の *W. tenuis* NODA sp. nov. が発生する。前 2 者と異なり、淡紅色を呈し高さは通常 1 cm、伸長したもので 2 cm、太さは 107—125 μ 位で全く皮層細胞を欠き、距って枝を互生し関節細胞は著しく長く、幅の 12—16 倍ある。四分孢子嚢は外膜厚く、径 50—70 μ 、精子器、嚢果も同時期に見られ、精子器は小さく、径 33—37 μ 、精子は少数にして径 7 μ 、果孢子は幅 28—32 μ を有する。本種は小枝の頂端細胞膨大するを以て特徴づけられる。



第 4 図 *Wrangelia tenuis*

また佐渡海峡にては多種多様の形態変化が見られる。紅藻類中にもツクシイギス (*Ceramium equisetoides*) は西海岸に於ては 11 月下旬、四分孢子嚢並びに精子器の形成を見るが、佐渡海峡では生育良好なるも生殖器官は全く形成されない。イトキヌゲ (*Monospora yagi*) についても同じ傾向を示し、太平洋沿岸産のものは通常 2 個以上の四分孢子嚢を輪生するが、佐渡海峡産では輪生も少なく、キヌゲグサ (*M. tenuis*) のように単生の四分孢子嚢が多い。嚢果を生ずる小枝も 2 個細胞でなく、ただ 1 個細胞よりなり、嚢果を包む苞枝も少なくして 8—9 条のものはなく 6—7 条しか見られない。12 月下旬にては輪生の四分孢子嚢は全く見られずしてキヌゲグサ (*M. tenuis*) の形態となり、小枝の頂端細胞も細からずして鈍頭となる。年間 *Sargassum* 類の

盤状根に着生して打ち揚げられるヨナクニクスダマ (*Spermothamnion yonakuniensis*) も 7 月頃から四分孢子囊の形成が見られるが、水温の低下と共に 12 月には急に減少し、また南方で見られる囊果、精子器の形成は全く見られない。また外況により四分孢子囊をつける糸状体は伸長、屈曲、分枝を生じ、また四分孢子囊の頂生から側生への転移が見られる。西海岸に於ては直立糸状体は真直に伸長して四分孢子囊を頂生するが、佐渡海峡では下部にて屈曲或は分枝を生じ、四分孢子囊も頂生、側生が見られ、極めて限られた変種 var. *sadoensis* NODA var. nov. にては伊豆産の *Sp. pusillum* OKAMURA et SEGAWA と同一形態を示し一側に並生する。またササバヤナギノリ (*Chondria lancifolia*) などは太平洋沿岸産のものに比べると、遙かに細くなり、モサヤナギノリ (*C. expansa*) に類似するようになる。斯かる形態変化は単に紅藻類のみでなく、褐藻、緑藻にても見られる。

結 語

上述した如く、佐渡海峡沿岸は海藻の種類に富み、分布上からも最北限を示すものが目立ち、その種類も 30 種に達する。そしてその傾向は紅藻類に於て多く、褐藻、緑藻の順となる。また佐渡海峡沿岸にては亜寒帯種の発生、更に多種多様の形態学的変化が現出し、極めて興味ある地帯である。

Summary

As mentioned above, there is a rich marine algae flora along the coast of Sado Island facing the Sado Straits. From a point of view of their distribution, the coast of Sado Straits is an interesting area. Furthermore, in this area, various morphological variations are observable in the fronds of several algae. It is very interesting to us to make a survey of marine algae and their distribution spreading into the straits of Sado, no other area in the Japan Sea seems to be more remarkable than the straits.

Literature

MONTAGNE, G. in WEBB. et BERTH.: Histoire Naturelle des Iles Canaries Vol. 3, pt. 2 (1940) p. 176 pl. 8 fig. 4. AGARDH, J. G.: Species genera et ordines algarum Vol. 2, pt. 3 (1863) p. 707. YENDO, K.: Notes on Algae New to Japan VII in Tokyo Bot. Mag. Vol. 31 (1917). OKAMURA, K.: On the Nature of the Marine algae of Japan and the Origin of the Japan Sea. Bot. Mag. Tokyo Vol. 41 (1927). OKAMURA, K.: Icones of Japanese Algae Vol. 7, No. 5 (1934) p. 46 pl. 324. OKAMURA, K.: Nippon Kaiso-shi (1936). SEGAWA, S.: On the Marine Algae of Susaki, Prov. Izu and its vicinity III in Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokk. Imp.

Univ. Vol. 1, No. 2 (1936). HIROHASHI, T.: Preliminary Report on the Distribution of Marine algae of the Islands in the Northern Japan Sea in Bot. Mag. Tokyo Vol. 51 (1937). YAMADA, Y. and TANAKA, T.: The Marine algae from the Island of Yonakuni in Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokk. Imp. Univ. Vol. 2, No. 1 (1938). TAKAMATSU, M.: Marine algae from the coast of Japan Sea in North-eastern Honshu, Japan. Saito Hō-on Kai Mus. Res. Bull. No. 17 Bot. No. 6 (1939). HASEGAWA, Y.: A List of the Marine algae from Okushiri Island in Sci. Pap. Hokk. Fisher. Sci. Inst. No. 3 (1949). NAKAMURA, Y.: New Ceramiums and Campylaephoras from Japan in Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokk. Univ. vol. 3, No. 2 (1950). SEGI, T.: Systematic study of the genus Polysiphonia from Japan and its Vicinity in Journ. Fac. Fisher. Pref. Univ. Mie Vol. 1, No. 2 (1951). ŌSHIMA, K.: The Marine algae of Toyama Bay (1952). SAITO, Y.: List of the Marine algae from Nou, Echigo Province and its Vicinity in Bull. Fac. Fisher. Hokk. Univ. Vol. 7, No. 2 (1956). NODA, M.: On the Marine flora of Islands of Awoshima and Tobishima in the Japan Sea. Read at the Annual meeting of the Botanical Society of Japan (1959). NODA, M.: On the Diversity of Morphological Characters of *Spermothamnion Yonakuniensis* YAMADA et TANAKA in Journ. Fac. Sci. Niigata Univ. Ser. II Vol. 4, No. 1 (1960). NODA, M.: On the Marine Flora of Sado Island in Japan Sea in Journ. Fac. Sci. Niigata Univ. Ser. II Vol. 4, No. 1 (1960). NODA, M.: On the Monostroma growing on the coast of Sado Island in Japan Sea in Journ. Fac. Sci. Niigata Univ. Ser. II Vol. 4, No. 2 (1962).

ソゾ属植物の成実枝中における 四分胞子囊の配列

斎 藤 譲*

Y. SAITO: On the Arrangement of Tetrasporangia
in the Stichidia of *Laurencia*

筆者は紅藻ソゾ属植物の生殖器官を主とした形態学的研究を行なっているうち、成実枝中に形成された四分胞子囊の配列様式に2型のあること、すなわち、四分胞子囊が成実枝の多少太くなった頂端の皮層下に同心円状に集まって生じ、枝の中軸に直角の面に配列する型と、成実枝の末端側面の皮層

* 北大水産学部

The Bulletin of Japanese Society of Phycology Vol. XI. No. 3, December 1963.

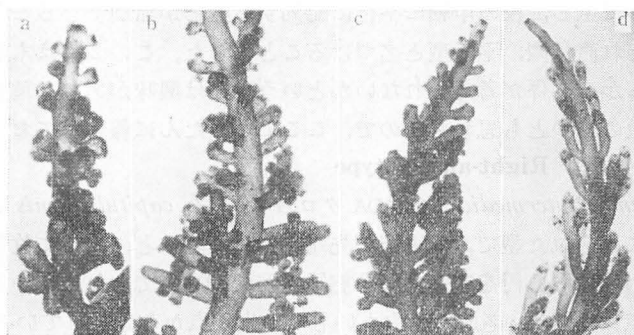


Fig. 1. Portion of fertile plant, showing stichidia. $\times 3.8$

- a. *Laurencia intermedia* YAMADA (Moheji, 16 August 1962).
- b. *Laurencia capituliformis* YAMADA (Matsumae, 3 August 1962).
- c. *Laurencia okamurai* YAMADA (Moheji, 16 August 1962).
- d. *Laurencia nipponica* Yamada (Oshoro, 19 July 1962).

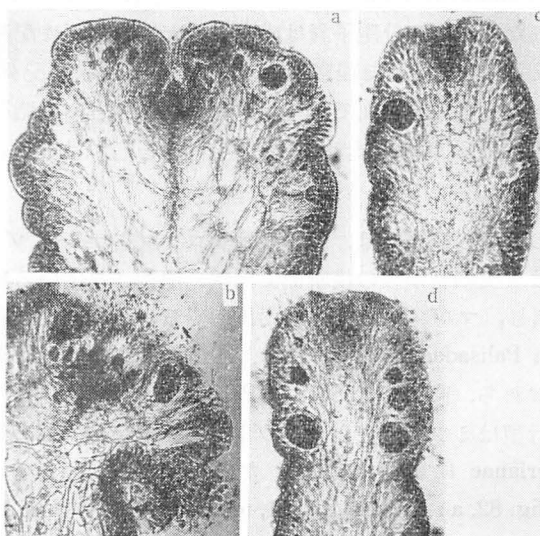


Fig. 2. Longitudinal section of a stichidium. $\times 45$

- a. *Laurencia intermedia* YAMADA (Oshoro, 22 September 1962).
- b. *Laurencia capituliformis* YAMADA (Matsumae, 3 August 1962).
- c. *Laurencia okamurai* YAMADA (Matsumae, 3 August 1962).
- d. *Laurencia nipponica* YAMADA (Oshoro, 19 July 1962).

下にならんで生じ、枝の中軸に平行に配列する型とが識別できることを見出し、それぞれ直角型、平行型と名づけることにした。この2型は本属の種の系統と何らかの関係が考えられないかという問題は興味があり、種の識別に役だつ特徴の一つとも思われるので、ここにかんたんに報告しておきたい。

1) 直角型 Right-angled type

Laurencia intermedia YAMADA クロソゾと *L. capituliformis* YAMADA マルソゾにみられた型で、成実枝の先端を上からみると、中心に位置する生長点のまわりに同心円を成して四分孢子嚢が配列されており、若い四分孢子嚢は生長点にちかく、老成した大きいものは生長点からはなれている (fig. 1, a, b; SAITO, 1961, fig. 4, E)。このような成実枝を正中縦断面で観察すると、枝の中軸細胞の列と四分孢子嚢の列がほぼ直角にまじわっている (fig. 2, a, b; SAITO, 1961, fig. 4, D) ので、直角型と名づける。

2) 平行型 Parallel type

Laurencia okamurai YAMADA ミツデソゾと *L. nipponica* YAMADA ウラソゾにみられた型で、四分孢子嚢は成実枝の末端の側面に配列されている (fig. 1, c, d)。成実枝の横断面で観察すると、孢子嚢は環状に配列され (SAITO, 1960, pl. 1, fig. B)、正中縦断面では枝の中軸細胞の列と四分孢子嚢の列がほぼ平行にならんでいる (fig. 2, c, d) ので、平行型と名づけることにした。

考 察

現在までの筆者の観察では、直角型はクロソゾとマルソゾにみられたが、クロソゾは表皮細胞が枝の横断面で柵状に配列されている種類 (Section Palisadae) に属し、マルソゾも最近、山田幸男教授からいただいた御手紙によれば Section Palisadae に入れるのがよいかも知れられている種である。すなわち、直角型は Section Palisadae にみられる。

一方、平行型はミツソゾとウラソゾにみられたが、この両種はともに Section Forsterianae に属している。なお、今日まで発表された文献の図 (KYLIN, 1923, fig. 82, a; YAMADA, 1931, text-fig. S; DAWSON, 1944, pl. 27, fig. 2, pl. 28, figs. 3, 4; 1954, pl. 4, fig. 3) から判断すると、平行型は Sect. Forsterianae のほか、Sect. Cartilagineae と Sect. Pinnatifidae にもみられるようである。

ソゾ属植物の四分孢子嚢の配列に以上のような2型がみられる理由については若干の知見を得ているが、なお多くの種について観察をすすめてから

考察してみたいと思う。

終りに御指導と本稿の校閲をいただいた時田郁教授に深く感謝するとともに、種の同定について御指導をいただき、マルソゾの位置に関する御意見を賜った山田幸男教授に御礼を申し上げる。

Summary

The tetrasporangia in *Laurencia intermedia* YAMADA and *L. capituliformis* YAMADA are observed to be formed at the more or less broadened apex of the stichidia. In a longitudinal section of the stichidium, the sporangia are arranged at right angles to the central axis. On the other hand, in *L. okamurai* YAMADA and *L. nipponica* YAMADA, the tetrasporangia are formed on the upper lateral of the stichidia and their arrangement in longitudinal sections is parallel to the central axis. Thus, in *Laurencia* species, we can distinguish two types of tetrasporangium arrangement which the writer proposes to call "the right-angled type" and "the parallel type" respectively. Morphological and phylogenetic relationships of these two types are to be discussed in future.

文 献

DAWSON, E. Y. (1944): Some New Laurenciae from Southern California. MADRONA, 7 (8); 233-240. ——— (1954): The Marine Flora of Isla San Benedicto following the Volcanic Eruption of 1952-1953. Univ. S. Calif. Press, 16; 1-13. KYLIN, H. (1923): Studien über die Entwicklungsgesichte der Florideen. Kungl. Sv. Vet-Akad. Handl., 63 (11); 1-139. 斎藤譲 (1960): 越後能生及び近傍の海藻ノート (3). 本誌, 8 (3); 85-90. ——— (1961): 越後能生及び近傍の海藻ノート (5). 本誌, 9 (2); 41-47. YAMADA, Y. (1931): Notes on Laurencia, with Special Reference to the Japanese Species. Univ. Calif. Publ. Bot., 16 (7): 185-310.

東道太郎氏コレクションの海藻標本目録 [I]

岡 本 一 彦*

K. OKAMOTO: List of Marine Algae
Collected by M. HIGASHI

国立科学博物館ハーバリウムに収蔵されている元水産講習所教授東道太郎氏コレクションの海藻標本のリストを作成したので紹介する。

この標本は東教授が1924~45年に至り本邦全地域 および千島・樺太・朝鮮の一部にわたって広く採集されたもので、1924・'28~9・'31~2・'36~7に採集せるものがことのほか多い。総点数800余点のうち緑藻植物11科62種、褐藻植物20科116種・紅藻植物29科257種のほか次の淡水藻類も若干含まれている。

なお、学名と標準和名は同教授の用いし名前をそのまま記述したが、研究者または群(科・属・種など)によって変更されているものもあるので、なるべく新しい文献(原色日本海藻図鑑1956)によってそれを[]内に付記した。

また、採地の記載順序は岡村(1929)による水平分布区域に従がい、北海道東岸南岸・表日本・八丈島以南・瀬戸内海・南西諸島・九州西岸北岸・裏日本・北海道西岸北岸の日本国内のほか千島・琉球・朝鮮・樺太をも添記した。

Tribonema bombycinum (AGARDH) DERBES et SOLIER 八王子(東京)

Tetraspora lubrica (ROTH) AGARDH アミヨツメモ 井の頭池(東京)

Hydrodictyon reticulatum (LINNÉ) LAGERHEIM アミミドロ 館山(千葉)

Prasiola japonica YATABE カワノリ 下仁田青倉(群馬) 吉野(東京)

Sphaeroplea annulina (ROTH) AGARDH ヨコワミドロ 上井草(東京)

Schizomeris leibleinii KÜTZING 三河島(東京)

Compsopogon oishii OKAMURA オオイシソウ 大宮(東京)

Batrachospermum gallaei SIRODOT ヒメカワモズク 八王子(東京)

B. moniliforme ROTH カワモズク 大宮(東京)

B. virgatum (KÜTZING) SIRODOT アオカワモズク 大宮(東京)

* 国立科学博物館植物学課

Thorea ramosissima BORY チスジノリ 菱刈湯之尾(鹿児島)

CHLOROPHYTA 緑藻植物

Tetrasporaceae よつめも科

Collinsiella cava (YENDO) PRINTZ 館山高島(千葉)

Monostromaceae ひとえぐさ科

Monostroma nitidum WITTROCK ヒトエグサ 松ヶ崎(三重)

M. zostericola TILDEN モツキヒトエ 小名浜(福島)

Ulvaceae あおさ科

Ulva conglobata KJELLMAN ボタンアオサ 小湊(千葉)

f. *densa* KJELLMAN 福江島三井楽(長崎)

U. lactuca LINNEAUS 小名浜(福島)

U. pertusa KJELLMAN アナアオサ 館山・樽葉(千葉) 小樽高島・利尻島仙法志(北海道) 大辺里(朝鮮)

U. reticulata FORSSKÅL アミアオサ (琉球)

U. spinulosa OKAMURA et SEGAWA ハ丈島(東京)

Letterstedtia japonica HOLMES ヤブレグサ 七里ヶ浜(神奈川)

Enteromorpha compressa (LINNÉ) GREVILLE ヒラアオノリ 江の島(神奈川)

E. crinita (ROTH) J. AGARDH ホソエダアオノリ 館山高島(千葉)

E. linza (LINNÉ) J. AGARDH ウスバアオノリ 青堀(千葉) 深川(東京)

Valoniaceae ばろにあ科

Dictyosphaeria cavernosa (FORSSKÅL) BOERGESEN キツコウグサ 浜島(三重)
幸脇(宮崎)

Siphonocladaceae まがたまも科

Struvea delicatula KÜTZING サイノメアミハ 浜島(三重)

Boodleaceae あおもぐさ科

Cladophoropsis fasciculatus (KJELLMAN) BÖERGESEN [= *C. zollingeri* BOERGESEN] ミドリゲ 館山高島(千葉) 鶴戸(宮崎) 八丈島(東京)

Spongocladia vaucheriaeformis ARESCHOUG [= *Cladophoropsis* sp.] キツネノ
オ(琉球)

Boodlea coacta (DICKIE) MURREY et DE TONI アオモグサ 小湊(千葉) 鶴戸(宮崎) 八丈島(東京)

Microdictyon japonicum SETCHELL アミモヨウ 館山沖島(千葉)

M. okamurai SETCHELL タノモグサ (琉球)

Cladophoraceae しおぐさ科

Cladophora japonica YAMADA オオシオグサ 洲崎(千葉)

C. ohkuboana HOLMES カタシオグサ 江の島(神奈川)

C. wrightiana HARVEY チャシオグサ 小湊(千葉) 青島(宮崎) 福江島三井楽(長崎)

Chaetomorpha crassa (AGARDH) KÜTZING ホソジユズモ 小湊(千葉)

C. media (AGARDH) KÜTZING エナガジユズモ 幸脇(宮崎)

C. moniligera KJELLMAN タマジユズモ 輪島(石川)

C. okamurai UEDA ミソジユズモ 三河島(東京)

C. spiralis OKAMURA フトジユズモ 小名浜(福島) 小湊(千葉)

Dasycladaceae かさのり科

Halicoryne wrightii HARVEY イソスギナ(琉球)

Acetabularia ryukyuensis OKAMURA et YAMADA カサノリ(琉球)

Bryopsidaceae はねも科

Bryopsis hypnoides LAMOUROUX オバナハネモ 雄島(福井)

B. maxima OKAMURA オオハネモ 天津(千葉)

Caulerpaceae いわづた科

Caulerpa ambigua OKAMURA ヒメイワツタ 館山沖島(千葉)

C. brachypus HARVEY ヘライワツタ 洲崎・館山沖島(千葉) 七里ヶ浜(神奈川) 奈留島(長崎)

C. cupressoides (VAHL) AGARDH v. *lycopodioides* f. *amicorum* WEBER VAN BOSSE [= *C. cupressoides* (VAHL) AGARDH v. *typica* WEBER VAN BOSSE] ビャクシンツタ(琉球)

C. okamurai WEBER VAN BOSSE フサイワツタ 小名浜(福島) 館山沖島(千葉) 幸脇(宮崎) 隠岐菱・隠岐都万(島根) 大辺里(朝鮮)

f. *oligophylla* OKAMURA タテヤマツタ 館山沖島(千葉)

C. peltata LAMOUROUX v. *typica* WEBER VAN BOSSE タカツキツタ 館山沖島(千葉)

C. racemosa WEBER VAN BOSSE v. *laete-virens* WEBER VAN BOSSE スリコギツタ 洲崎(千葉) 鵜戸(宮崎) 八丈島(東京) 奈留島(長崎)

v. occidentalis (J. AGARDH) BOERGESEN エツキツタ 鵜戸(宮崎)

C. webbiana MONTAGNE f. *elegans* YAMADA et TANAKA 奈留島(長崎)

f. *tomentella* WEBER VAN BOSSE コケイワツタ 油津(宮崎)

Codiaceae み る 科

Chlorodesmis comosa BAILEY et HARVEY マユハキモ 鵜戸・大島(宮崎)(琉球)

C. formosana YAMADA イトゲノマユハキモ 八丈島(東京)

Avrainvillea lacerata J. AGARDH f. *robustior* A. et E. S. GEPP クサビガタハ
ウチワ 浜島(三重)

Udotea javensis (MONTAGNE) GEPP ヒメイチヨウ 鵜戸(宮崎)

Halimeda cuneata HERING ウチワサボテンゲサ 浜島(三重)

H. incrassata LAMOUROUX f. *typica* BARTON ミツデサボテンゲサ(琉球)

Codium adhaerens (CABRERA) C. AGARDH ハイミル 小名浜(福島) 館山沖島(千葉) 浜島(三重) 奈留島(長崎)

C. coarctatum OKAMURA ネザシミル 小湊(千葉)

C. contractum KJELLMAN サキブトミル 小湊(千葉) 青海島(山口) 大淵里(朝鮮)

C. cylindricum HOLMES ナガミル 館山高島(千葉)

C. divaricatum HOLMES クロミル 布良・館山高島(千葉)

C. fragile (SURINGAR) HARIOT ミル 館山(千葉) 奈留島(長崎) 青海島(山口) 米山
(新潟)

C. intricatum OKAMURA モツレミル 館山沖島(千葉) 浜島(三重) 大島(宮崎) 奈留島
(長崎)

C. latum SURINGAR ヒラミル 天津(千葉) 外浦(静岡)

C. mamillosum HARVEY v. *minus* O. S. SCHMIDT タマミル 小湊(千葉)

C. pugniformis OKAMURA コブシミル 土佐清水(高知) 奈留島(長崎)

C. saccatum OKAMURA フクロミル 館山沖島(千葉)

C. tomentosum (HUDSON) STACKHOUSE イモセミル 三崎(神奈川) 利尻島仙法志
(北海道) 大淵里(朝鮮)

PHAEOPHYTA 褐藻植物

Ectocarpaceae しおみどろ科

Sorocarpus uvaeformis (LYNGBYE) PRINGSHEIM イソブドウ 小名浜(福島)

Sphacelariaceae くろがしら科

Sphacelaria variabilis SAUVAGEAU マタザキクロガシラ 館山(千葉)

Cutleriaceae むちも科

Cutleria cylindrica OKAMURA ムチモ 小名浜(福島) 館山高島(千葉) 鎌倉(神奈川)
海雲台(朝鮮)

Dictyotaceae あみじぐさ科

Dictyota dentata LAMOUROUX トゲアミジ(琉球)

D. dichotoma (HUDSON) LAMOUROUX アミジグサ 小湊(千葉) 八丈島(東京) 加茂
(山形) 大辺里(朝鮮)

D. divaricata LAMOUROUX カズノアミジ 館山沖島(千葉) 油津(宮崎) 奈留島(長崎)

D. linearis (AGARDH) GREVILLE イトアミジ 館山沖島(千葉) 宇出津(石川)

D. maxima ZANARDINI オオバアミジグサ 館山高島(千葉)

D. patens J. AGARDH コモンアミジ 館山高島(千葉)

D. radicans OKAMURA ヒメフクリン 八丈島(東京)

D. spinulosa HARVEY ハリアミジ 大島(宮崎)

Pachydictyon coriaceum (HOLMES) OKAMURA サナダグサ 小湊・館山高島(千葉) 大島(宮崎) 大淵里(朝鮮)

Dilophus marginatus (non AGARDH) OKAMURA [= *D. okamurai* DAWSON] フ
クリアンミジ 小湊(千葉)

Spathoglossum solierii (CHAUVIN) KÜTZING 小湊(千葉)

Dictyopteris divaricata (OKAMURA) OKAMURA エゾヤハズ 磐井崎(宮城) 小名
浜(福島) 米山(新潟) 利尻島杓形(北海道) 大淵里(朝鮮)

D. latiuscula (OKAMURA) OKAMURA ヤハズグサ 洲崎(千葉) 江の島(神奈川) 大
淵里(朝鮮)

D. prolifera (OKAMURA) OKAMURA ヘラヤハズ 小湊(千葉) 油津(宮崎) 青海島
(山口) 米山(新潟)

D. undulata (HOLMES) OKAMURA シワヤハズ 大賀・館山高島(千葉) 大島(東京)
浜島(三重) 油津(宮崎)

Zonaria diesingiana J. AGARDH シマオオギ 大島(宮崎) 八丈島(東京) 奈留島(長
崎) 四ヶ浦(福井)

Gymnosorus collaris (C. AGARDH) J. AGARDH [= *Pocockiella variegata* (LA-
MOUROUX) PAPENFUSS] ハイオオギ 土佐清水(高知)

Stypopodium lobatum KÜTZING [=*S. zonale* (LAMOUROUX) PAPENFUSS] ジガミグサ 館山沖島 (千葉)

Padina arborescens HOLMES ウミウチワ 江の島・七里ヶ浜 (神奈川) 八丈島 (東京)

P. crassa YAMADA コナウミウチワ 館山高島 (千葉) 青海島 (山口)

P. japonica YAMADA オキナウチワ 館山高島 (千葉)

P. minor YAMADA ウスユキウチワ 八丈島 (東京)

Leathesiaceae ねばりも科

Petrospongium rugosum (OKAMURA) SETCHELL et GARDNER シワノカワ 小名浜 (神島)

Leathesia difformis (LINNÉ) ARESCHOUG ネバリモ 大賀・館山高島 (千葉) 大辺里 (朝鮮)

Chordariaceae ながまつも科

Chordaria cladosiphon KÜTZING [=*Sphaerotrichia divaricata* (AGARDH) KYLIN] クサモズク 米山 (新潟)

C. firma E.S. GEPP [=*Sphaerotrichia divaricata* (AGARDH) KYLIN] イシモズク 磐井崎 (宮城) 三国 (福井) 米山 (新潟)

Eudesme crassa (SURINGAR) OKAMURA [=*Tinocladia crassa* (SURINGAR) KYLIN] フトモツク 大賀 (千葉) 浜島 (三重) 別府 (兵庫) 通山 (宮崎)

Gobia simplex (SAUNDERS) SETCHELL et GARDNER [=*Saundersella simplex* (SAUNDERS) KYLIN] ゴビア (モツキチャソウメン) 柴浜 (樺太)

Chordaria flagelliformis (MÜLLER) AGARDH ナガマツモ 利尻島杓形・礼文島香深 (北海道)

Heterochordaria abietina (RUPRECHT) SETCHELL et GARDNER マツモ 助川・湊 (茨城) 小樽高島 (北海道) 新知島 (千島)

Myriocladia kuromo YENDO クロモ 鎌倉 (神奈川) 通山 (宮崎) 滑川 (富山)

Acrothricaceae にせもずく科

Acrothrix pacifica OKAMURA et YAMADA ニセモズク 磐井崎 (宮城)

Spermatocnaceae もずく科

Nemacystus decipiens (SURINGAR) KUCKUCK モズク 隠岐 (島根) 仙崎 (山口) 四ヶ浦 (福井)

Ishigeaceae いしげ科

Ishige foliacea OKAMURA イロロ 小名浜 (福島) 天津 (千葉) 江の島 (神奈川)

I. okamurai YENDO イシゲ 小湊(千葉) 幸脇(宮崎) 米山(新潟) 済州島(朝鮮)

Sporochnaceae けやりも科

Carpomitra cabreræ (CLEMENTA) KÜTZING イチメガサ 小湊(千葉) 海雲台(朝鮮)

Nereia intricata YAMADA ウミボツス(琉球)

Desmarestiaceae うるしぐさ科

Desmarestia aculeata (LINNÉ) LAMOUROUX トゲウルシグサ 新知島(千島) 栄浜(樺太)

D. ligulata (LIGHTFOOT) LAMOUROUX ウルシグサ 函舞(北海道) 小名浜(福島)

D. tabacoides OKAMURA タバコグサ 洲崎(千葉)

D. viridis (MÜLLER) LAMOUROUX ケウルシグサ 小名浜(福島) 海雲台(朝鮮)

Punctariaceae はばもどき科

Punctaria latifolia GREVILLE ハバモドキ 横浜杉田(神奈川)

Asperococcaceae こもんぶくろ科

Myelophycus caespitosus (HARVEY) KJELLMAN イワヒゲ 湊(青森) 小名浜(福島) 江の島(神奈川) 海雲台(朝鮮)

Scytosiphonaceae かやものり科

Scytosiphon lomentarius (LYNGBYE) J. AGARDH カヤモノリ 助川(茨城) 小湊(千葉) 通山(宮崎) 新知島(千島)

Colpomenia sinuosa (ROTH) DERBES et SOLIER フクロノリ 小湊・館山高島(千葉)

f. *deformis* SETCHELL et GARDNER [= *C. bullosa* (SAUNDERS) YAMADA]

ワタモ 小名浜(福島) 天津(千葉)

Hydroclathrus clathratus (BORY) HOWE カゴメノリ 館山高島(千葉)

Endarachne binghamiae J. AGARDH ハバノリ 館山高島(千葉) 松島(朝鮮)

Coilodesmaceae えぞふくろ科

Coilodesme japonica YAMADA エゾフクロ 栄浜(樺太)

Chnoosporaceae むらちどり科

Chnoospora pacifica J. AGARDH ボウガタムラチドリ 八丈島(東京)

Chordaceae つるも科

Chorda filum (LINNÉ) LAMOUROUX ツルモ 浜島(三重) 別府(兵庫) 加茂(山形)

Laminariaceae こんぶ科

- Laminaria angustata* KJELLMAN ミツイシコンブ 静内棚別 (北海道)
 v. *longissima* MIYABE ナガコンブ 歯舞 (北海道)
L. cichorioides MIYABE チジミコンブ 小樽高島 (北海道)
L. diabolica MIYABE オニコンブ 根室 (北海道)
L. japonica ARESCHOUG マコンブ 三厩 (青森)
 f. *membranacea* MIYABE et NAGAI ドテメ 磐井崎 (宮城)
L. ochotensis MIYABE [= *L. japonica* ARESCHOUG v. *ochotensis* OKAMURA]
 リシリコンブ 利尻島鴛泊 (北海道)
L. religiosa MIYABE ホソメコンブ 湊 (青森) 磐井崎 (宮城)
L. saccharina (LINNÉ) LAMOUROUX f. *linearis* J. AGARDH カラフトコンブ 前
 津 (朝鮮)
L. yezoensis MIYABE ゴヘイコンブ 歯舞 (北海道)
Kjellmaniella crassifolia MIYABE ガゴメ 函館湯の川 (北海道) 利原 (朝鮮)
K. gyrata (KJELLMAN) MIYABE トロロコンブ 歯舞 (北海道)
Agarum cribrosum BORY アナメ 利尻島杏形 (北海道) 国後島 (千島)
Costaria costata (TURNER) SAUNDERS スジメ 重茂 (岩手) 磐井崎 (宮城) 利尻島杏
 形 (北海道)
Arthrothamnus bifidus (GMELIN) RUPRECHT ネコアシコンブ 歯舞 (北海道) 国
 後島 (千島)
A. kurilensis RUPRECHT チシマネコアシコンブ 松輪島 (千島)
Eisenia bicyclis (KJELLMAN) SETCHELL アラメ 銚子犬若・小湊・館山・館山高
 島 (千葉) 七里ヶ浜 (神奈川) 隠岐 (島根)
Ecklonia cava KJELLMAN ノロカジメ (カジメ) 小湊・布良 (千葉)
E. kurome OKAMURA クロメ 館山・館山高島 (千葉) 福江島三井楽 (長崎)
E. stolonifera OKAMURA ツルアラメ 佐渡 (新潟) 久六島 (青森)
Eckloniopsis radicata (KJELLMAN) OKAMURA アントクメ 洲崎 (千葉) 和具 (三重)
Undaria pinnatifida (HARVEY) SURINGAR ワカメ 小名浜 (福島) 布良 (千葉)
 f. *distans* MIYABE et OKAMURA ナンブワカメ 釜石 (宮城) 助川 (茨城)
 f. *narutensis* YENDO ナルトワカメ 越廼 (福井)
U. undarioides (YENDO) OKAMURA ヒロメ 和具 (三重)
U. peterseniana (KJELLMAN) OKAMURA アオワカメ 布良・相浜 (千葉)
Alaria crassifolia KJELLMAN チガイソ 鮫 (青森)
A. praelonga KJELLMAN アイヌワカメ 歯舞・静内棚別 (北海道)

新 著 紹 介

Charophyta By B. P. PAL, B. C. KUNDU, V. S. SUNDARLINGAM and G. S. VENKATARAMAN. 130 pp. 277+19 figs. Indian Council of Agricultural Research, New Delhi, INDIA. 1962

本書はインド地域(インド、パキスタン、ビルマ、セイロン)のソウ類モノグラフの第5巻として出版された。近年出版されたいくつかの類書同様に、分類のほかに生態、形態化石など各方面に幅広く、しかも各専門家の分担執筆により、でき上っている。各分野の中でも reproductive morphology の項については、著者の1人 SUNDARLINGAM を中心とする研究グループの人たちの最近の成果をもりあげ、秀逸といえよう。ただ残念なことには、ページ数制限のためか、比較的簡単に論じられたことで、せっかくならば今少し親切に書かれていたらという気がする。全ページの約 3/5 を占める分類の項目は、PAL と KUNDU の2人の努力と思われる。従来この地域については、この2人の外 G. O. ALLEN, S. C. DIXIT その他の人たちによる数多くの論文が出されているが、それらをまとめたものではなく、その点本書の出現はまさに期待にこたえたといえよう。ただ“monograph”とはやや趣をちがえ、これまでの全論文をまとめた review 形式をとっている。したがって原論文に対する critical な取扱いや、原標本の再検討などはなかったようで、私が発見している原記載と原標本の形質のくいちがい(例 *Chara nuda*)については気づかれていないのは残念である。もう1つのもの足りなさば、分布に関しての引用論文なり原記載が記されず、また分布図を用意されなかったことで、とくにインドの地理に詳しくない人たちにとって不便を感じさせる。

とはいえ、上質の紙に明瞭な印刷、とくに原図にまさる立派な挿図はすばらしい。シャジクモの分類学者のみならず、この類の一般的知識を得ようとする人びとにとっても貴重な本だと推したい。

(今堀宏三一大阪大学教養部生物学教室)

学 会 録 事

会 員 移 動

(昭和38年8月16日より昭和38年12月15日まで)

新 入 会 (7名)

現在会員数 409 名

住 所 変 更 (8 名)

本学会所蔵の雑誌及び論文別刷目録

(1962. 12. 1~1963. 11. 30 間に受領せしもの)

別 刷

山崎 浩： テングサ類増殖に関する基礎的研究，静岡県水産試験場伊豆分場研究報告第 19 号，pp. 1-92, 1962.

末松四郎： Morphological and Ecological Studies on Trentepohliaceae, Bull. Jap. Arts Coll. Wakayama Univ. Nat. Sci. 12: 15-52.

中沢信午： Tipos de Plasmolisis en Celulas Centrifugadas. An. Inst. Biol. Mex., XXXIII: 35-40, 1962.

———： Polar Blister Formation in Fucoid Eggs. Naturwiss. 50: 311-312, 1963

———： カサノリの細胞分化と核細胞質関係，生物科学 (1963), 第 15 巻第 2 号, 58-63.

———： Developmental Mechanics of Fucaceous Algae XX. Gradients in Susceptibility for Excessive Calcium Ions in Coccophora and Fucus Eggs. Bot. Mag. Tokyo 75: 468-472.

谷口森俊： 志摩，的矢湾における海藻の季節的消長，医学と生物学，Vol. 66, No. 1 pp. 27-29.

———： 津海岸における海藻の季節的消長，医学と生物学，Vol. 66, No. 4, pp. 210-212.

———： 矢作川川口付近の海藻，矢作川の自然，pp. 254-256, 1963.

雑 誌

Ботанический журнал: Tom. 47, Nos. 10-12., Tom. 48, Nos. 1-8.

日本菌学会会報: Vol. IV, Nos. 2-4.

水産庁内海区水産研究所研究報告: 第20, 21号.

海洋与湖沼: Vol. IV, Nos. 1-4, Vol. V, Nos. 1-2.

PHYKOS, Journal of the Phycological Society (India): Vol. I, Nos. 1-2.

単 行 本

谷口森俊: 日本の海藻群落学の研究, 井上書店 (1961).

本 学 会 記 事

昭和38年10月12日より15日まで、岡山大学に於いて日本植物学会第28回大会が開催されたが、それに先き立ち、10月11日に本学会の評議員会、講演会、総会、懇親会が玉野市渋川の岡山大学臨海実験所、海事研修所、国民宿舍玉野荘に於て次の如く盛大に開催された。

評 議 員 会

午前11時より午後1時まで岡山大学臨海実験所大広間に於いて開催。

出席者: (A) 評議員——川端清策・稲垣貫一 (北海道), 新崎盛敏・福島博・須藤俊造 (関東), 斎藤雄之助 (中部), 今堀宏三 (近畿), 藤山虎也 (中国・四国), 岡田喜一 (九州)。(B) 会長——山田幸男。(C) 幹事——中村義輝, 片田実, 舟橋説往, 山田家正。

欠席者: 中沢信午 (東北), 米田勇一 (近畿), 八木繁一・生駒義博 (推薦)。(中沢・八木・生駒各評議員は夫々出席評議員に委任した)。

即ち、全評議員13名中9名出席、更に3名の欠席評議員の委任を加えて下記事項について意見を纏めた。

1. 昭和37年度庶務・会計報告の原案を検討、これを承認した。
2. 昭和38年度予算原案を検討、これを承認した。
3. 会費未納者に対しては、2年以上滞納した場合、雑誌の発送停止を予告し財源の安定を計ることに意見が一致し総会に提出することとした。
4. 10周年記念事業に関する件

昨年度総会に於いて本件の具体化は幹事会に一任すると決定したため、資料を纏めた結果、本誌第1巻第1号より第10巻第3号までの総索引を作成するのが妥当であると考え、昨年度会長より発言があり全員これを了承、幹事側提出の原案について討議した結果、下記事項について意見の一致を得、総会に提出することとした。

(A) 第1巻第1号より第10巻第3号までの総索引を作成すること。内容、形式は著者別索引 (和欧とも) 和名及び学名、A5版 (“藻類” の大きさ) で約80頁。

(B) 頒布方法は全員に実費で頒布すべきであるとの結論に達し、全会員より臨時会費

を徴収することに決定した。単価は推定価格約 300 円。

5. 東大海洋研究所に藻類部門の設置を要望する件

新崎・藤山両評議員より新設の東大海洋研究所に藻類部門がないことに対し、藻類学会より日本学術会議宛藻類部門の設置を実現するよう要望することを提案。討議の結果、藻類部門設置の建議書を作成し、藻類学会の名に於いて日本学術会議に提出する。但し同建議書は在京評議員が作成する。以上の如く結論をみた。

講 演 会 記 事

第 11 回本会総会に先立ち、講演会が午後 1 時より 4 時まで海事研修所講堂に於いて開かれた。尚本学会独自の講演会が開かれたのは今回が初めてである。又折柄来日中の米国ハスキンス研究所のプロバゾーリ博士 (Dr. PROVASOLI) が特別参加。講演会のプログラムは次の通り。(敬称略)

1. 藤 山 虎 也: アサクサノリの細胞学
2. 福島 博・小林艶子: 南極の淡水藻とくに珪藻について
3. プロバゾーリ: 藻類の栄養と形態、発生
4. 渡 辺 篤: 微細藻類の保存について
5. 藤 原 輝 子: ダブリンの近況

第 11 回総会記事

本会第 11 回総会は、評議員会、講演会にひきつづき午後 4 時 30 分より 6 時まで海事研修所講義室に於いて次の順序に従って開催された。出席会員は 58 名。

開会の辞: 中村義輝幹事 会長挨拶: 山田幸男会長 議長選出: 慣例により地元会員の猪野俊平氏が選出された。

議 事

A. 庶務報告: 本誌第 11 巻第 1 号末頁に印刷した昭和 37 年度報告 (自昭和 37. 4. 1 至昭和 38. 3. 31) に基づいて秋岡幹事から説明があり、異議なく承認された。更に昭和 38 年 9 月 31 日現在で会員数は 404 名に達したことを報告した。

B. 会計報告: 同じく第 11 巻第 1 号末頁の 37 年度会計報告に基づき、舟橋幹事より報告承認を得た。更に本年 9 月 31 日までの中間報告及び来る昭和 39 年 3 月 31 日までの予算概要につき説明があり了承された。

尚、会計問題に関連して近江彦栄氏より会費未納者は何年たっても会員の資格を失わないのかという質問があり、これに対して評議員会に於いて決定事項 (2 年以上の会費未納者には雑誌の発送停止を予告する) を中村幹事が説明し、2 年を単位にして何らかの処置をとることに意見が一致した。

C. 10 周年記念事業に関する件:

評議員会の決定事項に基づき、中村幹事より説明があり (評議員会記事参照)、その報告に基づき討議した結果、「藻類」の総索引を作ることに満場一致で決定、その細目につ

いては下記の如く決定した。

1. 形式, 内容は評議員会の決定に同じ。 2. 印刷部数は 600 部 3. 単価は 300~400 円 4. 頒布方法は臨時会費を徴収し全会員に頒布する。 5. 赤字が予想される場合は, 広告の掲載その他の方法で赤字の解消を計る。

D. 東大海洋研究所に藻類部門の設置を学術学会議に要望する件:

新崎盛敏, 藤山虎也両氏より, 新設の東大海洋研究所には藻類部門がなく, 浅海増殖研究の重要性からみて, 藻類部門の設置を強力に要望すべきであると説明があり, 討議の結果その主旨に賛成し, その方法として次の如く決定した。「在京の評議員が中心となり要望書を作成し日本学術会議に提出する」。尚本件の討議に当り要望書案のプリントが全員に配布された。

出席者 (ABC順)

秋岡英承	秋山優	新崎盛敏	江越千代子	榎本幸人
藤山和恵	藤山虎也	藤原輝子	福島博	舟橋説往
古川晏子	原田市太郎	広瀬弘幸	今堀宏三	稲垣貫一
猪野俊平	猪子嘉生	犬丸 巖	入来義彦	神谷平
香村真徳	川端清策	川嶋昭二	加崎英男	喜田和四郎
北見健彦	小林艶子	熊野茂	黒田初子	日下部台次郎
正置富太郎	御船政明	三輪知雄	中村義輝	西林長朗
西沢一俊	野田光蔵	尾形英二	岡田喜一	奥野春雄
近江彦栄	斎藤雄之助	佐々木正人	沢田武男	瀬戸良三
須藤俊造	鷹取晟二	田中剛	谷口森俊	寺本賢一郎
時田 郁	津村孝平	植田利喜造	渡辺 篤	山田家正
山田幸男	山岸高旺	吉田啓正		(敬称略)

懇親会

総会終了後午後 6 時 30 分より, 瀬戸の海に臨む国民宿舎玉野荘大広間に於いて盛大な懇親会が開かれ, 特別参加のプロバゾーリ博士 (アメリカ), ベンカタラン博士 (インド) を含め出席者約百名の多きを数えた。地元世話人の猪野俊平氏・西林長朗氏より開会の挨拶が近江彦栄氏の通訳入りで行なわれ, その後, 山田会長, 玉野市長代理宮川観光課長の挨拶があり, 時田郁氏の音頭で乾杯, なごやかに会が始まり, 正面舞台では玉野小唄による踊り, 岡山県観光映画 (カラー, 英語版) の鑑賞等で時の経つのを忘れたが 9 時過ぎ猪野氏の閉会の挨拶で幕を閉じた。

以上各会の報告を終るに当り, 本学会開催のために最大の努力と熱意を払われた岡山大学猪野俊平氏, 西林長朗氏, 生物学教室, 臨海実験所, 玉野市当局の方々に心から感謝致します。

投稿規定

会員諸君から大体次の事柄を御含みの上投稿を期待します。

1. 藻類に関する小論文（和文）、綜説、論文抄録、雑録等。
2. 原稿掲載の取捨、掲載の順序、体裁及び校正は役員会に一任のこと。
3. 別刷の費用は著者負担とする。但し小論文、綜説、総合抄録に限りその50部分の費用は会にて負担する。
4. 小論文、綜説、総合抄録は400字詰原稿用紙12枚位迄、其他は同上6枚位迄を限度とし図版等のスペースは此の内に含まれる。
尚小論文、綜説に限り、欧文題目及び本文半頁以内の欧文摘要を付すること、欧文は成る可く、英、独語を用うること。
5. 原稿は平仮名混り、横書としなるべく400字詰原稿用紙を用うること。

尚学会に関する通信は、札幌市北大理学部植物学教室内本会庶務、会計又は編集幹事宛とし幹事の個人名は一切使用せぬよう特に注意のこと。

昭和38年度役員

会	長	山	田	幸	男
編	集	中	村	義	輝
幹	事	片	田		実
〃		舟	橋	説	往
編集・会計幹事		山	田	家	正
庶務幹事		秋	岡	英	承
幹	事	松	永	圭	朔
〃					

昭和38年12月20日印刷

昭和38年12月25日発行

編集兼発行者 中村義輝

室蘭市新富町北海道大学理学部海藻研究所

印刷者 山中キヨ

札幌市北三条東七丁目三四二番地

発行所 日本藻類学会

札幌市北海道大学理学部植物学教室内

振替小樽13306

禁 転 載

不 許 複 製

